

Next is us

日体魂を受け継ぐ者

前向きに、たくましく、
スポーツの力、平和と命の尊さを
世界の未来に向けて発信していく

スポーツにおいて、シンボルマークや旗、ユニフォームなどはチームの統合の象徴として極めて重い意味を持つ。日体大では、これらがどのように決まってきたのだろうか？

現在、公式には「校章」「シンボルマーク」「ロゴマーク」「シンボルマスケット」が定められている。本校固有のものとして、使用には許可が必要だ。

このうち「シンボルマーク」について、制定の経緯を紹介しよう。それは1955（昭和30）年に遡る。職員会議の席上、大学のシンボルマークが話題に上がった。かつては陸上は「朝日」、ハンドボールは「鷲」、アメリカンフットボールは「熊」などマークやマスケットはまちまちで、スクールカラーも別に定められていなかった。この会議で、バレーボールが考案した「桜をモチーフにしたロゴマーク」が採用されたという。そして、スクールカラーが「紺」に定められた。ここで尽力されたのが、バレーボールで大きな功績を残した中田茂先生であった。

当時ロゴ・デザインに関する世の関心は必ずしも高いとは言えなかったが、時代を経て、V（ビジュアル・アイデンティティ）は、スポーツの場だけでなく組織運営でも戦略的に重要な意味を持つようになる。2007（平成19）年には、「Vーガイドライン」が制定され、日体大のブランド、アイデンティティを継承する正統な象徴として位置づけられることになった。このとき新たに誕生した「ロゴマーク」「シンボルマスケット」は公募により決まったものである。これらがユニフォームやトレーニングウェア、応援旗などに使用され、グラウンドや観客席でその存在感を示し、選手や関係者の気持ちを高揚させている。

コロナ禍により、クラスや部で一堂に会する機会が少なくなっているが、日体大の団結は些かも変わることはない。ふだん何気なく目にしているこれらのマークが、重い意味を持つことを忘れないうでほしい。

日体大の象徴

日体大を極める Episode 2



「シンボルマスケット」

公募作品の中から投票によって決定。天空の月に向かって咆哮する獅子 (The Triumphant Lion) がダイナミックにシンボライズされ、体育スポーツ界の覇者にふさわしいデザイン。



「ロゴマーク」

公募作品の中から投票によって決定。本学の英語表記「NITTAIDAI」と「NSSU」の頭文字「N」を用いて人の走る姿を表現している。日体大生の手によってデザインされた。



「シンボルマーク」

1955年に制定した日体大のシンボルマーク。六つの花弁を持った桜でデザインされ、中央の三つの花弁は体育大学のTをあらわし、背後の三つの花弁はそれを支える同窓、保護者、社会をあらわしている。



「校章」

1949年、新制大学として新たな一歩を踏み出した日体大。その際に「大学」の左右に「體」と「育」の文字を配した記章（校章）を定めた。さらに1952年には「體大」と改め、校旗や学友会各部の部旗などに織り込まれるようになった。



新しい様式

▶マスク着用、検温・手指消毒、ソーシャルディスタンスなど、新しい様式が日常的になりつつある。そして、大学をはじめとする教育現場では「オンライン（遠隔）授業」が活用されている。これらは私たちに不便を強いている側面があることも確かだが、一方で暮らしや学び方を見直すきっかけにもなっている。

▶オンライン（遠隔）授業により、普段は出会うことのできないトップアスリートから直接指導を受けることも可能になるかもしれない。教員として、ICTを活用することでさらに知的好奇心を刺激する授業を子どもたちに提供することもできるだろう。

▶海外で学び・活動する機会は、すぐには訪れないかもしれないが、オンラインを使えば、世界中の人々と会話したり、語学を学んだりするチャンスもある。社会の変化を新たな価値の創造につなげていくことが期待されている。新しい様式を改善の策にとどめてはならない。

学報NITTAIDAI（ニッタイダイ）62号

発行日●2020年11月4日

発行●日本体育大学広報課

TEL 03-5706-0948

FAX 03-5706-0922

http://www.nittai.ac.jp/

制作協力●(株)図書出版

03

Special Contents

これからのオンライン（遠隔）授業を考える

● オンライン（遠隔）授業の検証と展望

オンライン（遠隔）授業で培われる力は、これからの「生きる力」の礎に

半田 勝久 体育学部健康学科准教授
教育企画センター副センター長

● オンライン（遠隔）授業の取り組み事例

【講義】「オンラインだからこそできること」を考え、学生の立場に立った試みを実践

須永 美歌子 児童スポーツ教育学部児童スポーツ教育学科教授

【実技】実技の臨場感を伝えるため、授業で使う学内施設・用具を用いて動画を制作

藤田 将弘 体育学部体育学科准教授

● 学生の立場で考えるオンライン（遠隔）授業のあり方・可能性

教職を目指す学生たちのオンライン（遠隔）授業に対する感想・提案

11

国際交流センターのプログラム

<国際交流センターの活動Vol.2>

—海外への夢の実現に向けて準備を始めよう—

国際交流センターのプログラム紹介

経験者からのメッセージ（海外留学・JICA海外協力隊）

～今、このときに伝えたいこと～

15

Next is us 日体魂の聖火リレー

～日体魂を受け継ぐ者～

第14回

チームの中心は苦難を乗り越えた4年生。

彼らが決めた道を尊重し、「父親」として彼らをサポートする。

玉城 良二 陸上競技部男子駅伝ブロック監督

19

コロナに負けるな！

工夫を凝らしたプログラムで実施された2020年度夏期実習

キャンプ実習／野外活動実習B（山野）・ゴルフ実習・海浜実習・

野外活動実習C（幼児野外活動）・野外活動実習I（海）

新型コロナウイルス感染症拡大防止の施策として急遽導入されたオンライン（遠隔）授業。本来の対面式授業ではなく不便を感じた人もいますが、一方で新しい授業スタイルとしての可能性にも気づくことになりました。今後、教育現場での活用が進むでしょう。今号では、学生・教員の声や授業の実際を検証し、これからのオンライン（遠隔）授業のあり方を考えます。

オンライン（遠隔）授業の検証と展望

オンライン（遠隔）授業で
培われる力は、
これからの「生きる力」の礎に

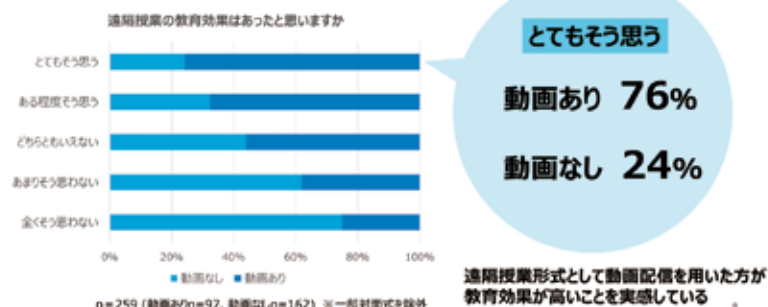
Q1. 日体大で展開されているオンライン（遠隔）授業の形態を紹介ください。

「n-pass」（本学Webサービス学生支援システム…nssupassport）のクラスプロフィールを利用した授業資料の配信、課題の提示（回収）、小テストの実施（作成）等を主軸に、先生方の創意工夫により、補助的にビデオコミュニケーションツール（ZoomやMicrosoft Teams他）を用いた双方型授業（35%）や、動画配信（40%）を行ってきました。

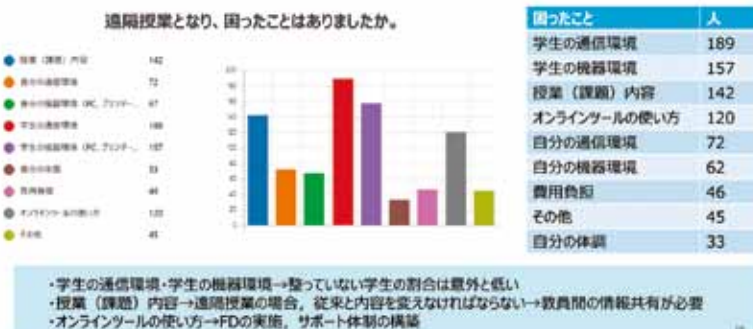
Q2. これまでの授業を通して感じたオンライン（遠隔）授業のメリット・デメリットはなんですか？

資料配信型授業は、資料枚数など気にせず提示できるし、課題やテスト結果を瞬時に回収できるため、フィードバックや統計データ処理が簡単でといったメリットがあります。学生にとっては、時間帯や場所に拘束されず、生活の自由度が高くなります。一方、授業準備や学生へのフィードバック

動画なし（資料配信のみ）と動画あり（ビデオオンデマンド・ライブ授業）の教育効果の比較



遠隔授業で困ったこと



（令和2年度前学期「遠隔授業」に関する教員アンケート結果（7月実施）n=268）

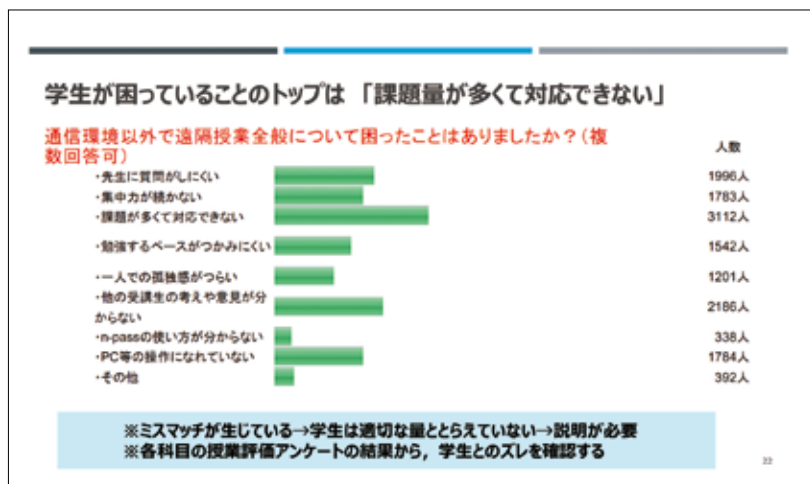


n-passを利用した授業や映像配信等
（ビデオコミュニケーションツール他）を用いた
授業検討プロジェクトリーダー

半田 勝久 准教授

教育企画センター副センター長
（体育学部健康学科）

主な研究テーマ：教育制度学、教育法・政策学、
教育方法論、子ども支援学



(令和2年度前学期「遠隔授業」に関する学生アンケート結果(7月~8月実施) n=6,935)

くには莫大な時間がかかります。必修授業や教職科目をご担当の先生は、週に千人を超える受講生がいますので、徹夜が続く体調を壊されたという話をうかがいます。学生にとっては、数多くの課題をこなすことで精神的・肉体的に相当の負担がかかります。

双方向型授業は、リアルタイムにやり取りができるため普段の授業に近い感じですが、無線LANなどの通信環境やパソコンなどの機器環境が整っていないと授業に参加することができなかったり、パソコンやスマホの前にいる時間が増えたりといったデメリットもあります。

動画配信型は、オリジナルの動画撮影や編集に先生方はご苦労されている様子でした。

実際に、教員アンケートの結果では、63.4%が「遠隔授

業の効果はあった」(「とてもそう思う」10.4%「ある程度そう思う」53.0%)と回答しています。さらに分析してみると、遠隔授業として動画配信を用いた方が教育効果が高いと実感していることもわかりました。

Q3. 授業運営を通しての課題はなんでしょう？

講義系と実技系・演習系・実験系・実習系(実践系授業)の授業では、違いがあるように感じています。

講義系の先生方からは「学生は与えられた資料をよく読み、課題に取り組んでいた。提出あるいは発表された課題は良くできていて、遠隔授業であったとしても教育目標は達成したと判断できる」と教育効果を実感できたとする先生の声も多かったです。

実践系授業では、学生に実技の動画を撮影し送り返してもらったり、双方向型授業で学生の実践を確認したりするなどといった工夫を凝らすことにより、学生の満足度も高く一定の手応えをつかんでいる先生もいました。一方、「対面式授業だからこそ体感できる臨場感や動作特性の理解などを、非対面式授業でどれだけ習得してもらえたのか確認できない為、教育効果があった、と断言しにくい」といった声もありました。

Q4. 前学期を踏まえて、後学期で特に改善・注力したい点はなんでしょう？

前学期授業では、ビデオコミュニケーションツールの活用は補助的でしたが、学生の通信環境も整いつつあり、こうした双方向型授業を求める声も多いため、後学期は実践的活用へつなげていきたいと考えています。

また、前学期授業の検証のなかで、教育における映像情報の活用は教員・学生双方にポジティブな効果が期待できることが明らかとなったため、動画配信(ビデオオンデマンド授業)型授業にも力を入れていきたいと考えています。

Q5. オンライン(遠隔)授業を実施する上で、重要と思われることはなんでしょう？

教育の質保証のために、知恵を出し合いながら少しずつ改善につなげていくことが大切です。

4月に「n-passを利用した授業や映像配信等(ビデオコミュニケーションツール他)」を用いた授業検討プロジェクト」を立ち上げ、遠隔授業に関する情報を整理し発信し、8月には前学期授業の評価・検証、9月には全学FD(Faculty Development)を実施し先進的な授業実践を共有してきました。今後、動画撮影・編集の研修会や各種FDを開催したいと考えています。併せて、ビデオコミュニケーションツールの活用をサポートできるよう、マニュアルの作成や体制整備にも着手してきています。

Q6. 日体大ならではの活用の提案、また教職志望者が今後携わる小・中・高の教育現場で、オンライン(遠隔)授業はどのような可能性を秘めているのでしょうか？

日本代表選手や部活動で公認欠席が多い学生や何らかの理由で学校に来ることが困難な学生への教育にも、こうしたメディアを活用した授業に、大きな可能性を見出せました。本学のヴィジョンは、「身体に纏わる文化と科学の総合大学」として、かかる分野のリーディング・ユニバーシティを目指し、「教育」「研究」「社会貢献」に携わっていくことです。全国のスポーツ系大学の手本になるよう、オンライン(遠隔)授業のあり方についても積極的に発信していかなければならないという使命感を持っています。

これからの学校教育においては、授業におけるICT活用は必須となります。また、どこにいても国内外の人々とながら、議論したり、考えをまとめたり、成果を形にしていける力が、まさにこれからの「生きる力」の礎になっていくものと確信しています。

オンライン授業の 取り組み事例①【講義】

「オンラインだからこそできること」を考え、
学生の立場に立った試みを実践

Q1. 担当科目の授業概要を紹介ください。

「スポーツ生理学」は、運動やトレーニングにおける筋・神経・呼吸・循環機能といった生体諸機能の生理学的応答や適応のメカニズムを理解し、競技力向上や健康増進のための運動やトレーニングに応用可能な知識を深めることを目標としています。中学校教諭1種免許状・高等学校教諭1種免許状（保健体育）の取得要件科目です。

「児童スポーツトレーニング学」は、子どもを対象とした適切な運動方法を学び、個々の発育発達に応じたトレーニングプログラムの作成ができる知識と能力を習得することを目標としています。また、日本スポーツ協会の公認スポーツ指導者やジュニアスポーツ指導員の資格取得要件科目です。私が担当する科目は、体育・スポーツの専門家として必要な基礎的な知識とそれを実践的に応用できる能力を身につけるために役立つと考えています。

Q2. オンライン（遠隔）授業は具体的にどのような形態で実施されましたか？

オンデマンド形式で実施しました。パワーポイントで授業資料を作成し、さらに音声で説明を加えた動画を作成しま

した。それらをサーバー上にアップロードして、いつでも授業資料をダウンロードしたり、動画を視聴したりできるようにしました。また、課題はアンケートフォームを利用して行いました。オンデマンド形式のみだとメールなど文章だけのやりとりになってしまったため、月に1回はZoom（Web会議システム）を用いて質問や意見交換の機会を設けています。

Q3. オンライン（遠隔）授業を実施する上で、特に工夫・配慮された点をお聞かせください。

課題の最後に自由記述欄を設け、授業の感想や困っていることがあれば入力できるようにしておきました。色々なことを書いてくれるので、毎回読むのがとても楽しかったです。むしろ、対面式授業よりもそれぞれの学生の状況を理解できたような気がします。

また、動画を作成するうえで長時間になりすぎないように注意しました。伝えたいことはたくさんあるのですが「ミニマム・エッセンシャルズ（教育用語で必要最小限）」を意識して、コンパクトにまとめました。学生はいくつもの授業を履修していますし、画面を凝視する時間が長すぎるとからだ



須永 美歌子 教授

（児童スポーツ教育学部児童スポーツ教育学科）

主な研究テーマ：女性アスリートに多く発症する健康障害の予防・改善

<担当科目>

「スポーツ生理学」
スポーツ文化学部武道教育学科・スポーツ国際学科2年、児童スポーツ教育学部児童スポーツ教育学科1年「児童スポーツトレーニング学」
児童スポーツ教育学部児童スポーツ教育学科2年

への負担になることや集中力低下などを考慮して、1回あたり30分程度としました。もっと長くてもよいと言ってくれる意欲の高い学生もいましたが、そのような場合には「動画を視聴して疑問に感じたこと、興味を持ったことをさらに自分で調べると知識が深まるので、ぜひ取り組んでみてください」と伝えていました。

私も学生みなさんと同様に4月は不安も大きかったですし、新しいソフトウェアをいくつも使うことになり、覚えるの

児童スポーツトレーニング学第4回課題

アンケートフォームを用いた課題

PC、スマホのどちらからも回答することができます。



Microsoft Teamsを利用した授業例
URLをクリックすることで動画が視聴できたり、
課題を入力することができます。

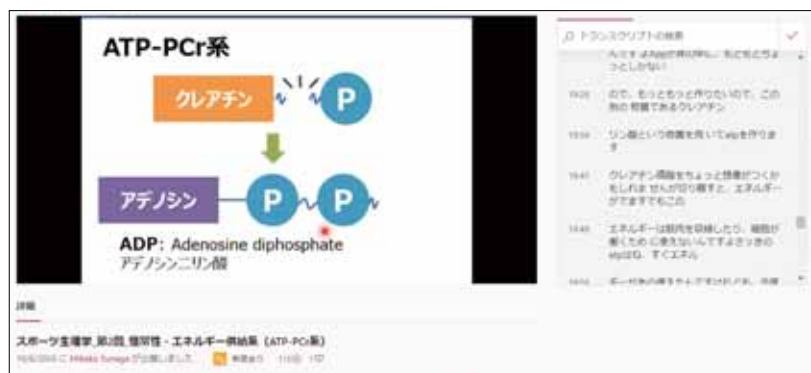
前学期は、突然のオンライン授業
実施となりましたので、パソコンや
ネット環境が整わず困った学生もい
ました。
Q5. オンライン（遠隔）授業を履
修する学生に対してアドバイスをお
願います。

Q4. 学生の反応はいかがでしたか？
オンデマンド形式（動画配信）の良い点として、「分からな
かったところは繰り返し見て理解することができた」、「ネッ
ト環境が悪くなった時でも、時間を見つけて好きな場所で見
ることができた」、「一時停止をしてメモをとることができる
のが助かる」といった感想が寄せられました。その一方で「対
面式授業の方が、先生と直接話すことができるので疑問をす
ぐに解決できるし、楽しいと感じら
れる」といった声もありました。

がとても大変でした。しかし、今は自分の授業スタイルの幅
を広げるチャンスになつてよかったと感じています。また、対
面授業とまったく同じようにオンライン授業を実施すること
は非常に困難ですし、「オンラインだからこそできることは何
か」を考えて授業準備に取り組むようにしていました。



授業資料（動画）例「スポーツ生理学」



授業資料（動画）例「スポーツ生理学」



授業資料（動画）例「児童スポーツトレーニング学」

たと思います。しかし、7月末に学生支援センターで実施し
たアンケート調査によると、90%以上の学生がパソコンを所
持し、Wi-Fi環境が整っている状況でした。卒業後に社
会で活躍するためには、パソコンや様々なアプリケーションソ
フトウェアを利用して情報をインプット＆アウトプットする
能力を高めることが必要不可欠です。また、最近の就職活動
（応募、面接などは、オンラインベースで実施されています。
パソコンスキルやネットリテラシーを向上させる良い機会だ
と考え、できるかぎり学習環境を整えてオンライン授業に取
り組んでいただきたいと思います。

オンライン授業はしばらく続きますが、どうか健康に気を
付けて学習を続けてください。「オンライン授業は、対面式
授業と比べて疲れる」と感じた学生もいるでしょう。座りつ
ぱなしで動いていないのになぜ疲れてしまうのでしょうか。こ
れは、同じ姿勢でパソコンやスマホの画面を見続けていると、
同じ部位の筋肉が長時間収縮されて血液循環が悪くなつてし
まうことが原因です。ひとつの授業が終わったら、ストレッチ
をしたり、腕を回したり、足踏みをしたりといった軽い運動
をすると、循環がよくなり、次の授業のモチベーションや集
中力アップにつながります。
オンライン授業を受けて、要望や気づいたことを伝えてい
ただけると、私もとても参考になります。積極的にコメント
していただくことを希望します。

オンライン授業の 取り組み事例②【実技】

実技の臨場感を伝えるため、
授業で使う学内施設・用具を用いて動画を制作

Q1. 担当科目の授業概要を紹介ください。

「運動方法・バスケットボール」は、バスケットボールの特性、学習内容を概括的に把握し、バスケットボールの動きを構成している基本的技能とルールを学習するものです。「スポーツ実践指導法・バスケットボール」では、スポーツ種目毎に競技力、観察力を高めるための理論、実践を通して総合的に学習します。特にこの授業では、バスケットボールの確かな指導理論（知識）と実践（能力）を身につけることを目標としています。「運動方法・球技A」では、ゴール型球技の各種目の特性を踏まえ、手でボールを扱うバスケットボールを中心に、競技力、観察力を高めるための理論、実践を通して総合的に学習、「スポーツ研究C・D」では、学習を経て身に付けた理論と実践を基礎として、バスケットボール競技に関する課題に対して様々な観点から研究を進め、卒業論文を作成すること、更に、その結果を指導現場にフィードバックさせることを目標としています。

Q2. オンライン（遠隔）授業は具体的にどのような形態で実施されましたか？

学生が履修登録した科目を「オンデマンド型」と「ライブ型」という2つの方式を取り、インターネットにアクセスして受講できるように整えました。「オンデマンド型」は、基本的な知識や技術の授業を録画して学生たちに配信する方式をとり、一方「ライブ型」は、team sシステムやその他のアプリケーションを用いて、学生と双方向にやり取りしながら学習を進めていく方式で授業を展開しました。また、補習学習期間をもうけ、大学内の施設を使って受講科目（実技）を実際に行えるように教員の時間・場所を確保しました。

Q3. オンライン（遠隔）授業を実施する上で、特に工夫・配慮された点をお聞かせください。

バスケットボール競技の起源とその歴史・ルールを含めた競技特性から技術の解説などについて、オンライン授業用に動画を作成しました。そこに、毎回テキストと小テストを添付し、設問に回答することによって内容を理解しているかどうかの確認をおこない出席席を含む評価をしていきました。こういった内容の授業ビデオを作成して受講学生に配信することで最低限の「知る・観る」をカバーできるよう工夫し、n pass システムなどを使って受講学生からの質問を受け付ける体制も整え、実践の動作に移った時、よりスムーズ



藤田 将弘 准教授

（体育学部体育学科）

主な研究テーマ：バスケットボール・コーチング学（パフォーマンス分析・ゲーム分析）

＜担当科目＞

運動方法・バスケットボール（体育学部：1年）

スポーツ実践指導法・バスケットボール（体育学部：3年）

運動方法・球技A（スポーツ文化学部：3年）

スポーツ研究C・D（3年：4年）



アウトサイドシュート分割写真（実技指導ビデオより）

に進めていけるように工夫しながらコミュニケーション環境を整えました。
技術編の動画撮影は、実際に授業で使用する本学の施設内で撮影を行いました。実際に授業で学生（自分）が使用する



チェストパス分割写真（実技指導ビデオより）



実技指導ビデオ・オープニング映像より

る施設（器具・用具）や雰囲気を感じて欲しかったからです。動画編集では、わかりやすいよう項目ごとに文字タイトルやテロップを挿入するなど、受講学生が見やすいようカット割りをを用いて、撮影は通常スピード再生やスロー再生、また様々なアングル（角度）で二つの技術を撮り映像に工夫も凝らしました。さらに、BGMを挿入して、あまり堅苦しくならない演出もしました。撮影編集など専門的な知識はありませんでしたが、大学施設に来て学ぶことのできない学生達の心に寄り添う気持ちで作りました。

Q4. 学生の反応はいかがでしたか？

私たちと学生の双方に戸惑いもありましたが、前期授業開始前に計画した授業展開は達成できたと感じています。受

講学生からも「授業ビデオが分かりやすかった」など一定の評価も頂いております。メリットは、授業ビデオが繰り返し何度でも観れること、授業回数分のテキストや資料問題などが、PC上で保管できることで、今後、保健体育教員になった際に、授業（遠隔）参考資料となることも期待できるでしょう。

Q5. オンライン（遠隔）授業を履修する学生に対してアドバイスをお願いします。

オンライン（遠隔）授業に関しては、授業を受ける機材（PC・タブレット）などの準備やネット環境を整えることは各自でお願いしたいと思っています。今後の社会情勢や仕事（就職）を考えても、パソコン基本操作やそれに伴う専門知識などが問われる時代になっています。ワードやエクセルなどOfficeアプリケーションや電子メールなどは必ず必要になるスキルです。幅広いスキルを学生時に習得し慣れ親しむことが、今後の人生において大きな

機転となることは間違いありません！

Q6. 日体大ならではのオンライン（遠隔）授業活用の提案、また今後の展望はありますか？

デジタル化が進む中、教育現場でもデジタルテクノロジーを駆使したシステム環境づくりが必要になって来ると感じます。作る側（教員）、受ける側（学生）と双方を繋ぐコンテンツを本学で開発できればと思います。それが、日本全国の教育現場で活用されるように整うことを希望しますし、協力していきたいです。

授業でのさらなる活用にあたっては、学生が主体的に学修するアクティブラーニング的な教育の展開や質向上が求められると思います。実技系オンライン授業では、実践ができないことが最大の問題・課題です。例えば各競技などの授業用ゲーム開発などで、実際に自分がその競技をバーチャル（ゲーム上）で行うことや、アスリート（競技者）の目線で競技を行う体験（視覚）ができるシステム構築が求められると思います。

これからのオンライン（遠隔）授業を考える

オンライン（遠隔）授業を受けて：GIGAスクール構想が進む中、教員として自らが電子機器を駆使して授業を行う前に、授業を受講する側として、授業内容だけでなくオンライン授業の展開の仕方を学び、双方からの視点を体験することができました。しかし、改めて対面でのコミュニケーションの大切さを実感し授業を皆で作り上げていく点に関しては不便に感じました。

印象に残ったこと：講義動画で授業を進め理解を深めたい部分やもう少し時間をかけて読みたい資料があった場合に授業を見返すことができるのは深い学びへと繋がりました。

支持する授業形態：対面＋オンラインを支持します。実際に対面して心を通わせながら授業をしコミュニケーションを取ることは内容理解をしやすいだけでなく、人間だからこそ出来る強みであり大切にすべき点だと考えます。しかし、学生が活躍する10・20年後は情報化が急速に進化していると考えられます。時代の流れに飲み込まれずに主体的に社会で活躍するためには、情報活用能力を育成することが大切だと思います。

あなたがオンライン（遠隔）授業を実施するとしたら：体育はオンラインで行うのは難しいですが、家の中でも出来る運動や家の中にある物でできる練習などを、生徒たち自らが考えて発表する場を作ることでオンラインでも受動的にならず能動的に運動に取り組む機会を作りたいです。

私のアイデア

家でできる運動や
練習を考え、
オンラインで発表する授業

香川 咲貴

(かがわ さき)
体育学部・健康学科 4年
所属部活動・サークル：スカッシュ
同好会
志望：高等学校保健体育教諭



目指す学生たちに率直な感想や新しい教育スタイルへの期待を聞いてみました。

（遠隔）授業のあり方・可能性

私のアイデア

オンライン英会話で
ネイティブの先生と
話す機会をつくる

オンライン（遠隔）授業を受けて：良かったことは、今後当たり前になっていく新しい形式を学生側の立場で受けることにより、教育者としてどのように利用していくべきかを考えることができたことです。一方で、人との関わりが普段より少なくなったため、他者から受ける影響が減り、学んだことを深める時間が自然と少なくなったと感じました。

印象に残ったこと：教育実習指導ⅡではZoomというアプリで少人数での話し合いの場を設けてくださったので、普段話さない人とも話す機会になり、毎度新鮮な気持ちで授業を受けることが出来ました。

支持する授業形態：私は、対面授業とオンライン授業の併用を支持します。オンライン授業は同時配信授業だけでなく、自分の好きな時に受けられるオンデマンド授業も含まれているため、自分のペースで行うことができます。「全ての児童・生徒のための教育」を目指すためにもオンライン授業と対面授業の良さを取り入れることで、質の高い授業になると考えました。

あなたがオンライン（遠隔）授業を実施するとしたら：このオンライン授業は、何らかの理由で学校に来られない児童・生徒が社会と関わる第一歩になる可能性があると考えます。無理のない程度に授業に参加し、少しずつステップアップしていく方法として利用していきたいと思います。また、GIGAスクール構想が実現した場合には、民間のオンライン英会話を取り入れ、ネイティブの先生と話す機会を作りたいと考えています。

福岡 編彩

(ふくおか あみさ)
児童スポーツ教育学部・
児童スポーツ教育学科 4年
所属部活動・サークル：体操部
志望：小学校教諭



私のアイデア

提出物に毎回反応を返す、
コミュニケーションの
多い授業

板井 大知

(いたい だいち)
体育学部・体育学科 3年
所属部活動・サークル：体操部
志望：中学校保健体育教諭



オンライン(遠隔)授業を受けて：良かった点は、移動時間を学習に活用することができたことです。不便に感じた点は、モチベーションの維持が難しかったことです。教職系の科目は「将来の夢(教師)」に近づくためとモチベーションを高めて取り組みましたが、実技系の科目は、実際に体を動かすことができないため、充足感を十分に味わうことが難しかったです。

印象に残ったこと：奥村高明先生の「教育課程論」が印象に残っています。この授業は提出物に毎回「A～Cの評価」と「コメント」が返ってきました。それによって自分のレポートの論点は正しいか、特に重要なことは何なのかを確認でき、提出して終わりではなく、正しい学習が行えたかを授業ごとに自己評価・改善することができました。

支持する授業形態：さまざまな形態を受けてみて、それぞれに良い面とそうでない面がありました。そのため、どれがいいかといわれると答えにくいですが、ただ、実技をオンライン授業で行うことは、日本体育大学ではすごくもったいない、残念なことだと感じています。

あなたがオンライン(遠隔)授業を実施するとしたら：生徒が「提出して終わり」にならない授業にしたいです。オンライン授業では、学習してから提出までに「考えをまとめる時間」が対面授業より多くあり、この学習時間の質を高くしたいです。そして提出されたものに毎回反応を返し、コミュニケーションの多い授業を目指します。「オンラインだからできることをどう伸ばしていけるか」という点を重視して考え、工夫のある授業を実施したいです。

学生たちはオンライン(遠隔)授業を受けてどのように感じたのでしょうか。将来、教員を

学生の立場で考えるオンライン

私のアイデア

自分が住む町を調べ、
遠方の学校とオンラインで
発表し合う授業

無田 康生

(むた こうき)
児童スポーツ教育学部・
児童スポーツ教育学科 2年
所属部活動・サークル：バーベル
クラブ
志望：小学校教諭



オンライン(遠隔)授業を受けて：配信された授業動画をいつでも見返すことができる点は、復習にも役立つので良いと思いました。しかし、実技は実際に行うことができないので不便さも感じました。

印象に残ったこと：近藤智靖先生の「児童スポーツ指導論」です。Zoomを使用してグループを作り、模擬授業を行う授業でした。最初はオンラインで模擬授業ができるか不安でしたが、班で協力しながら指導案を作成したり、他の班の授業を見て参考にしたりと、実際に対面で行っているかのような授業でとても勉強になりました。

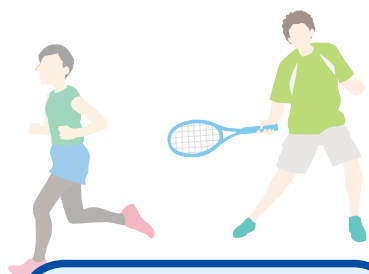
支持する授業形態：実技や実習に関する授業は対面で行いたいです。その他の授業は資料などパソコンだと整理しやすいのでオンラインでも良いと思いました。

あなたがオンライン(遠隔)授業を実施するとしたら：近年の学校教育では「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められています。その中で私が教師としてオンラインを活用するならば、遠方の学校と中継を繋ぎ、その地域の子どもたちと発表会を行いたいです。例えば、総合的な学習の時間で「私の住む町」について調べ学習をします。普段なら調べた内容をクラスで発表して終わりです。私はここでオンラインを活用し、他の地域の子どもたちと自分の町について意見交換をします。そうすることで自分の町についてより興味を持ち、さらに相手が住む町のくらしも知ることができるため社会科の授業にもつながり、より「主体的・対話的で深い学び」の実現ができ、子どもたちの「生きる力」を育むと考えます。

向けて準備を始めよう

ターのプログラム～

部活動で培ってきた
ことを活かしたい



4年間部活動を
頑張って
卒業後海外へ行きたい



大学内で英語を
学びたい



英語を学びたいけど
なかなか時間が取れない

国際交流センターでは、皆さんの目標に応じたさまざまなプログラムを用意しています。

海外留学・ボランティア活動から、学内で語学力を高めるプログラムまで、海外を感じるチャンスが満載です。気軽に相談に来てください。

【JICA 海外協力隊】

この事業は、日本政府 ODA（政府開発援助）予算により、独立行政法人国際協力機構（JICA）が実施しています。選抜されると、2年間開発途上国で現地の人々と共に生活し、同じ目線で課題解決に貢献する活動を行います。日体大卒業生は体育・スポーツ、教育系などさまざまな職種で多数活躍しています。国際交流センターでは応募を希望する学生に対して、面接対策等のサポートもしています。

【学内語学プログラム】

GLOBAL CAFE（無料）

英語を話す・聴くことに慣れることを目的とした外国人講師によるレッスンです。日本に居ながらにして生きた英語に触れる貴重な機会です。
月・水・金 12:00 ～ 14:00 で行なっています。予約は n-pass から！

キャンパス英会話レッスン

毎日 40 分の少人数制レッスンです。授業の合間に受けることができるため、時間を有効に使うことができます。前学期または後学期を通して実施され（1年間の受講も可能）、無理なく英会話を伸ばすことができます。

オンライン英会話（グループ）

全 10 回のプログラムです。毎回テーマに沿ってテキストを用いて会話を行い、基礎英会話力の向上を目指します。自宅にいながら、外国人講師や仲間と触れ合い、楽しく学ぶことができるのが魅力です。

オンライン英会話（マンツーマン）

通信環境があればどこでも受けることができます（6～25 時、予約制）。初心者から上級者まで対応しています。目標や実力に合わせて、自分のペースで英会話を学びたい学生におすすめです。

TOEIC 対策講座

全 6 回の講座で、初級、中級の 2 クラスを設けています。初級は 330 ～ 400 点程度、中級は 500 ～ 600 点程度を目標としています。留学や就職活動等に利用できる資格ですので積極的にチャレンジしてください。

TOEIC IP テスト

学内で行うため、受験しやすいことが特徴です。マークシート方式、オンラインの 2 つの方法で実施しています。TOEIC 対策講座やその他の学内語学プログラムも活用しながら、スコアアップを目指しましょう。

※プログラムは変更、中止されることがあります。詳細は n-pass、国際交流センターで確認してください。



海外への夢の実現に ～国際交流セン

大学を1年間休学し、海外の大学の授業に参加するプログラムです。各国・地域の体育・スポーツや教育事情なども腰を据えて学習・研究することができます。語学力だけでなく、コミュニケーション能力や異文化適応能力が身につくことでしょう。

【交換留学】



海外の大学で
授業を受けてみたい

夏季・春季休暇中に海外の大学の授業に参加するプログラムです。休学せずに参加することができます。語学力はもちろんのこと、海外生活に対して自信を持つことができ、将来、長期留学を目指すきっかけになるかもしれません。

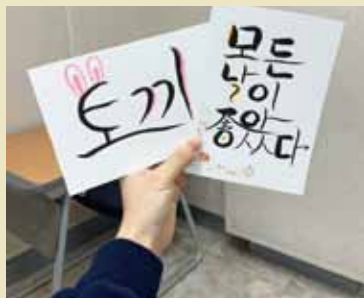
【短期留学】



異文化に触れて
視野を広げたい

語学の勉強・習得を目的とした短期間のプログラムです。英語と韓国語の2言語があります。課外活動等を通して現地の文化を体験することもできます。語学はやはり現地で学びたいという学生に最適です。

【語学研修】



海外で語学を
学びたい

★留学ワンポイントアドバイス★

One point advice

留学先は各国を代表する体育大学・体育学部等であるため、同じ目標を持つ海外の学生と交流ができます。また、交流協定校と本学は緊密な連携を築いており、安心して学ぶことができます。体育・スポーツに対して新しい知見が得られるとともに、アスリート・教員・指導者として、あるいは一般企業等でのさらなる活躍を目指す上でも貴重な経験になるはずです。アジア、ヨーロッパ、北米、南米と、多岐にわたる国や地域の留学先・プログラムがあります。留学先で取得した単位は本学で互換可能な場合もあります。

留学先には本学を代表して派遣されるため、応募資格を設け、書類、面接による選考を実施しています。興味のある学生は、留学の目的を明確にするとともに、語学力を高めて準備を進めておきましょう。国際交流センターでは、プログラム内容や応募についての説明はもちろん、各種サポートを行っていますので、ぜひ気軽に相談してください。

～今、このときに伝えたいこと～

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）をきっかけに世界は新たな方向に動き出しています。JICA海外協力隊や留学参加者は世界の今の動きを目の当たりにしてきました。

今こそ世界を理解するためのチャンスととらえ、目標を定め、実現に向けて行動を始めましょう。

何事も学びにすることが今は必要

青年海外協力隊(短期) **大八木 涼真** (おおやぎ りょうま) 体育学部体育学科 4年
派遣先: グアテマラ 期間: 2020年2月～3月

●活動の様子: 主に長期派遣隊員(本学硬式野球部OB)の任地(コパン市)を中心にグアテマラ国内を巡り、野球の普及活動や現地の野球チームとの親善試合を行いました。プライベートでは現地のコーチたちと食事をしたり、ホテル周辺の活気ある商店街を散策したり、グアテマラの日常に触れることができました。

●COVID-19の活動の影響: 政府の迅速な対応が目立ちました。感染者が出た翌日にはイベントやスポーツが禁止になりました。また、夜間外出禁止令も発令されましたが、デリバリーが発達しており、食事に困ることはなかったです。

●現地の人々のCOVID-19への反応: アジア人として差別を感じることもありましたが、差別に鈍感と言われていた日本を考慮直すきっかけになり、後に起こる“Black Lives Matter”への関心も高まりました。

●COVID-19による自身の計画・キャリア観の変化: 教員になる前にJICA青年海外協力隊長期派遣に参加したかったのですが、今は教員として経験を積んでから青年海外協力隊に参加してみようとも考えています。

●今だからこそできること: オンラインの語学学習やYouTubeなどで行きたい国の動画をみてイメージを膨らませてみましょう。何事も学びにすることが今は必要かと思います。



新しいこと、今できることに挑戦してみてください

日系社会青年海外協力隊 **矢野口 功司** (やのくち こうじ) 体育学部社会体育学科 2018年度卒
派遣先: ブラジル 期間: 2019年7月～2020年3月

●活動の様子: ソフトボールの練習の他に地域の学校へ行き、野球・ソフトボールの紹介、友人の誕生日会や釣りを楽しんでいました。

●COVID-19の活動への影響: ブラジルで感染者が確認されてから、クラブ活動の停止、および大会もすべて中止となりました。日本への帰国命令も突然だったので子供達やチームの関係者に帰国することを直接伝えることもできずにブラジルを出国しました。

●現地の人々のCOVID-19への反応: ブラジルのコロナ対策は日本と比べて厳しいです。規制により仕事を失う人もいますので、コロナ対策に対し街で多くの抗議活動が起きました。

●COVID-19による自身の計画・キャリア観の変化: 今後JICA海外協力隊としてブラジルへ戻ることが出来なくても、ブラジルへ展開している日系企業へ就職し、もう一度ブラジルへ行って働きたい、ブラジルと関り続けたいと思うようになりました。

●今だからこそできること: 私は現在、コロナ禍のために外国人労働者が来日することが出来ず人手不足になっている農家で働いています。コロナ禍にならなかったら私はこのような経験をするのは無かったです。皆さんもこれを機に、何か新しいこと、今できることに挑戦してみてください。きっと何か得る事があるはずです。

今のうちに日本の文化にしっかり触れておいてほしい

青年海外協力隊 **清水 綾香** (しみず あやか) 体育学部体育学科 2018年度卒
派遣先: モルディブ 期間: 2019年7月～2020年3月

●活動の様子: モルディブのMaaungoodhoo島という人口約500人の小さい島の学校で、現地の体育教員と共に体育の授業を行い、イベントのときは準備運動指導などを行いました。夜には、島の女性とエクササイズをして、ダイエット会を共に楽しみました。また首都では、モルディブ隊員全員で現地の人と協力して日本文化紹介等を行う日本モルディブ祭を開催しました。

●COVID-19の活動への影響: 学校は約3ヶ月半休校になり、その後は分散登校を取り入れており、体育は行われていません。私は日本から、家でできるエクササイズ動画を配信するなど遠隔での活動を行っています。

●現地の人々のCOVID-19への反応: 首都では3月下旬から外出制限が行われていますが、人の往来の少ない住民島などでは今まで通りの生活を送っています。

●COVID-19による自身の計画・キャリア観の変化: 予想外の帰国となりましたが、オンラインでの日本文化紹介など日本にいるからこそ出来る活動をしていこうと思いました。

●今だからこそできること: 日本の文化に興味がある外国の人が多くいると思いますので、生で日本の文化に触れている今だからこそ、色々なことを紹介できるように写真を沢山撮っておくことをお勧めします。



経験者からのメッセージ(海外留学・JICA海外協力隊)

時間がなくてできなかったことを実行する好機です

交換留学 高山 拓也 (たかやま たくや) 体育学部体育学科 4年
派遣先: チェコ 期間: 2019年9月～2020年3月

●活動の様子: 平日は授業があり、夜は友達と食事に行ったり、パーティーをしていました。また週末には、電車やバスなどで他の国へ旅行に行きました。

●COVID-19の授業への影響: 授業は3月の中旬から休止してしまい、その後は全てオンラインでの授業や課題の提出に変わりました。コロナ以前はヨーロッパでマスク姿の人は全く見なかったのですが、マスクや布などで顔を覆うことが義務のようになり、マスクはすぐに売り切れ、マスクがない学生は大学のレセプションで手作りのマスクをもらっていました。

●現地の人々のCOVID-19への反応: どんどん規制が厳しくなって深刻さを肌で感じました。公園などの運動

する場所もすぐに使用禁止になり、警察が規制線などを張って回っていました。またアジア人ということで、心無い言葉をかけられたこともありました。

●COVID-19による自身の計画・キャリア観の変化: 大きな変化は実感していませんが、最近ではもしコロナがなかったらどう違ったのかと考えることは多々あります。

●今だからこそできること: 私はとにかく勉強に時間を当てました。英語の勉強だけではなく、自分が今までやろうと思ってできなかったことを実行する良い機会だと思ったからです。留学を考えている人や英語を学びたい人はオンラインの英会話をぜひ利用してみましょう。



世界と繋がる仕事に就きたい思いが強まった

交換留学 田中 詩菜 (たなか しな) 体育学部体育学科 4年
派遣先: ドイツ 期間: 2019年9月～2020年3月

●活動の様子: ドイツ語で行われる実技の授業、英語で行われる座学の授業を履修しました。休みを利用して、ヨーロッパの他の国へ旅行に行ったことが思い出です。

●COVID-19の授業への影響: 夏のセメスターの開始が遅れ、オンライン授業へと変更になりました。留学生も減り、友達と集まって励まし合っていました。大人数で集まることも禁止され、一人で部屋にいる時間が多くなりました。

●現地の人々のCOVID-19への反応: 街中はスーパー、薬局、ATMしか開いておらず、3人以上での外出が禁止されました。はじめは公園で遊ぶ人もいましたが、様々

な制限措置が定められ、これを破ると罰金も科せられることになり、外には人がほとんどいなくなりました。

●COVID-19による自身の計画・キャリア観の変化: もともと目指していた業界の採用がなくなり、目標を再検討しています。コロナの影響で国と国とが繋がることの意義を感じ、少しでも世界と繋がっていただける仕事に就きたいと思うようになりました。

●今だからこそできること: ドイツ首相の会見を聞いたり、他のヨーロッパのコロナ状況を調べたり、海外だからこそ様々な面からコロナを見ることができました。マイナスよりもプラスなことが多くなるように、みんなで乗り越えていくことが大切だと感じています。

この時間を使って、将来についてゆっくり考えてほしい

交換留学 本郷 健人 (ほんどう けんと) スポーツ文化学部スポーツ国際学科 3年
派遣先: スウェーデン 期間: 2020年2月～2021年1月

●活動の様子: 選択した「Swedish Culture Leisure and Sports」のクラスは課外授業がほとんどで、森に行きバーベキューをしたり、自然のなかでアイススケートをしたりなど、スウェーデンの文化を肌で学ぶことができました。

●COVID-19の授業への影響: 授業は4月からすべてオンラインに切り替わり、テストなどもオンラインで行うようになりました。日常生活では、留学生の70%近くの学生が3月末には帰国して、学生寮にいる人数もかなり減りました。

●現地の人々のCOVID-19への反応: スウェーデンは独自の「集団免疫戦略」という対策をとっていたため、

マスクをしている人を見ることは少なかったです。また、レストランやスーパーでも特に変わったことはなく、コロナ拡大以前と同じような生活でした。

●COVID-19による自身の計画・キャリア観の変化: コロナの影響で数か月先の状況がわからない中、自分のキャリアプランを前もって考える必要をあらためて感じました。

●今だからこそできること: コロナ禍で不自由な生活を送っていると思いますが、逆に自分で使える時間が増えたのではないのでしょうか。将来のために今何ができるのかなど、ふだん時間の限られたなかであまり考えることができないことを、ゆっくりと考えてみてください。



Next is us

日体魂の聖火リレー

～日体魂を受け継ぐ者～

14

陸上競技部男子駅伝ブロック監督

玉城 良二

学生時代、箱根駅伝を走り準優勝に輝く
指導者としても全国高校女子駅伝に連続出場
そして今年、母校の監督に就任し
73回目の箱根に挑む

チームの中心は

苦難を乗り越えた4年生。

彼らが決めた道を尊重し、

「父親」として彼らをサポートする。

監督の打診を受けて

母校の監督にというお声かけは非常に名誉なことであり、身に余る話だと思いました。しかしながら、喜んですぐにお引き受けをする訳にもいきませんでした。これまで一貫して公立高校の教員として女子の指導に携わっており、大学駅伝の指導経験がなかったからです。部員の生徒を自宅に預かっていたり、後任の指導者をどうするかなどの問題もありました。

しかし再三に渡りお話を頂く中、条件が整えばと心境が変わっていきました。そして後任への引き継ぎや、生徒の生活環境の維持に目処が立ったことから、監督への就任を決断しました。

監督就任時の印象

指導現場が女子中心だったため、男子については詳細に情報を得られる状況にありませんでした。どうしても同じ時期に大事な大会が、男子と女子で重なってしまうのです。箱根駅伝ですら、観戦など一切できないままでしたので、本当に詳しい情報は何もないままの就任でした。

実際に選手たちと顔を合わせた時の第一印象は、生活や練習をきちんとやっていることでした。4年生の主務・キャプテンが中心となり、学生らしい良いチームだと感じました。一方で、これだけしっかりとした活動をしながら、それが競技の成績と結びついていないのはどうしてなのか。学生中心でやっていて不安や自信のなさが原因になっているのでは？と思いました。

予選会までに取り組んだこと

競技に臨む上での基礎的な部分はできている。その中で私



箱根駅伝2021に 向けての思い

あと2ヶ月ほどで箱根駅伝の本戦が行われます。短い期間の中では極端に新しい取り組みをするよりも、今までやってきたことを強固にしていける方が本番での力の発揮に繋がります。できることを確実にやりつつ、質を上げて行く。そのような考え方のもとで生活と練習を行い、本番に向けた指導をしていきたいと思っています。

◆プロフィール

玉城良二 (たまき りょうじ)

中学時代はバスケットボール部。高校から陸上競技を始め、日本体育大学の体育学部社会体育学科に入学。学生時代は陸上競技部に所属し、4年生の時には箱根駅伝にも出場する。卒業後は公立高校の教員となり、競技の指導者として36年のキャリアを積む。長野東高校を率いて全国高校女子駅伝では2017年と2018年に2位を達成。2020年6月、専任監督が不在だった陸上競技部男子駅伝ブロックの監督に就任。わずか3ヶ月半という短い期間の指導で、10月に行われた箱根駅伝の予選会を突破。73年連続、73回目の本戦出場を果たす。



自身としては、これまで学生が自分たちで考えてやってきたことを尊重しつつ、方向性をサポートしよう。それでいいんだと、後ろから押して行く。そんな方針でやっていこうと思いました。

ポテンシャルを引き出すため、メンタル面のサポートも重視しました。まず手初めに、4年生と個人面談をしました。学生スポーツの中心となるのは4年生です。その4年生がどういう考えでいるのか。何に不安を感じているのか。チームについてどんな思いを持っているのか。1人1人と話をしながら、自分が何をしてくれるのか、面談の中から探りながらのスタートでした。

—— 4年生へのリスペクト

他太学は1、2年生など下級生の台頭がありますが、本校は本当に4年生が中心です。この4年間、彼らは様々な経験をして、辛い思いもして、最後の最後に全員で頑張ろうという時に新型コロナの影響を受け、それでもこの4年間で成長した姿を見せてくれました。

特に主務・キャプテンは人間的にも非常に優れており、自分の任されたことを責任を持ってやっていて、むしろ私が指導を受けている位です。本当に素晴らしいキャプテンや主務がいる時に就任できたと思います。もし彼らがいなかったら、今回の箱根の予選も突破できたか自信がありません。

—— 学生に対するスタンス

私自身、公立高校の教員であるとともに、生徒を自宅に預かって、生活や練習を長年ともにしてきました。学校にいる時は教員、練習の場面では監督、生活では父親と、意識せずに行っていました。むしろ、食事を作ったり、相談に乗ったり、世話をしていた妻の方が大変だったでしょう。ほとんど8割は妻が監督だったようなものです。

大学生に対しても、監督というより親の立場で接したいと考えています。寮での生活はどうか、食事はきちんと食べているか、授業の単位は取れているか、安心して生活できているか。親御さんに「日体大の駅伝に預けておけば大丈夫だ」と思って頂ける環境を目指しています。

玉城 良二

――駅伝で得た喜びと悔しさ――

私は大学時代は目立つ選手ではなく、一度だけ箱根を走らせて頂いた程度です。その時は4年生でしたが、大学として強い時期に当たり、総合2位でゴールできました。しかしそんな嬉しい思いよりも強烈な悔しさが残っているのが、3年生の駅伝です。この年、日体大は優勝しましたが、私は当日変更で控えに回されてしまったのです。予定ではアンカーにエントリーされていたので、出場してしっかりと走っていれば、読売新聞社の前でトップでゴールしたと思うと、この悔しさはその後の指導者人生にも影響を与えた出来事です。

ではなぜ、自分は走れなかったのか？それは力の問題だけではなく、メンバーに入った時点で満足し、最後の詰めや向上心が足りなかった、つまり準備不足や甘えがあったのでしょう。物事全てそうですが、スタートラインに立った時には、既にほぼ結果が決まっています。重要なのは万全な準備、当たり前のことをきちんと丁寧に行うことです。

――東京・世田谷キャンパスでの経験――

私は社会体育学科だったので、多くの授



業や活動の場が東京・世田谷キャンパスにありました。4年生になっても世田谷での授業が沢山あり、合宿所のある健志台から毎日通うのが大変でした。朝練習をして、世田谷に行き、授業が終わったらまた戻ってきて練習。今考えてみるとよくやったなと思います。

ただ、当時の健志台はガチガチの運動部がいる所でしたが、世田谷には健康学科や短大など、キャンパスライフ的な華やかさがあり、競技への集中からリラックスできる貴重な場でした。また健志台だけでは人の輪や活動範囲がどうしても狭くなります。世田谷に行くことで多くの仲間と関われたのは大きな財産です。

――日体大の伝統・強みとは――

日体大は、スポーツを通じて実戦だけではなく、指導や人間性を高める学び舎だと思っています。そういう本校のカラーを大切に、駅伝を通じて人としての成長と社会へ出て役に立てる人間作りを基本に活動しなければいけない。常々学生には、単に競技者ということではなく、指導者目線を持つて活動をするようにと言っています。

やがて、教員やスポーツ指導者として多くの者が世に出て行きます。その時になつてからではなく、今から自分自身の中に指導者目線的な考えを持つことが、競技者、人としての成長、さらには社会に出て役に立つことに繋がると考えています。

――日体大同窓生の強いネットワーク――

全国どこに行っても卒業生の方々が体育・スポーツの現場で活躍をされており、お力を頂ける機会が沢山あります。今回もご挨拶



拶回りをしたり、色々な大会等に顔を出させてもらったり、勧誘活動をさせて頂く中で、日体大ファミリーの存在を実感しました。

その背景には、日体大の卒業生としての共通の体験や価値観があるのでしょう。球技などの身体活動を通して、お互いに体で競い合ったり、助け合ったりする中で、単に机を並べて同じ授業を聞くだけでは生まれない、いわば同じ釜の飯を一緒に食べたような一体感が生まれるのではないのでしょうか。

――東京オリンピック・パラリンピックに向けて――

日体大の関係者が競技者としてオリンピックに参加し、活躍することは何よりの喜びです。それに加えて地元開催ですから、競技の運営に携わったり応援などを通じて、日体大の力がオリンピックに大きく寄与できれば大変嬉しいと思います。私自身も競技役員の予定ですが、選手の活躍だけでなく、競技の運営や支援においても、日体大は力になっていくべきでしょう。

Next is us
日体魂の聖火リレー

玉城良二監督からエールをいただきました。

新型コロナの影響でオリンピックやパラリンピックが延期となりましたが、来年の箱根駅伝も無観客で行われることとなりました。いつもなら見られる沿道での応援もままならないなど、引き続き大変な状況です。しかし日体大には恵まれた環境、施設、指導者、仲間たちがいます。ぜひ「限られた4年間、精一杯一つのことを打ち込んだ学生生活だった」と何年経っても言えるような生活を送ってください。そして競技者としての活躍だけでなく、競技の運営や選手の育成、関わる人々への支援や助け合いを通じて、スポーツの良さや素晴らしさを発信できる人間になってほしいと思います。

競技者としてだけでなく、
運営や育成、支援や助け合いを通じて、
社会の力になれる存在に。



コロナに
負けるな!

工夫を凝らしたプログラムで実施された2020年度夏期実習

日体大の仲間たちが学び合い、助け合い、スポーツや活動の楽しさを分かち合う夏期実習。

重要な位置付けであるプログラムですが、今年は新型コロナウイルス感染症のため、内容の変更や縮小を余儀なくされました。

しかし、そのような中でもそれぞれ工夫を凝らしたメニューで実施され、仲間と直接触れ合う楽しさをあらためて実感することができました。

キャンプ実習／野外活動実習B(山野)

- 対象：保健医療学部を除く全学部2年
- 実施日：1回7月6日(月)、2回7月7日(火)
- 場所：横浜・健志台キャンパス
- 主な内容：「実践活動プログラム(学内で野外調理を実践)」 「自宅学習プログラム(動画視聴及び活動プログラムについて課題提出)」 「実践活動プログラム(自宅でキャンプ飯を調理)」を実施。

キャンプの基礎的知識・技術能力(野外生活技術・野外活動技術)を身に付けることが狙い。今年は野外生活技術に焦点をあて、実施されました。



ゴルフ実習

- 対象：体育学部体育学科4年
- 実施日：7月6日(月)
- 場所：横浜・健志台キャンパス
- 主な内容：ショット練習及びバッター練習、スナッグゴルフ、ゴルフ部学生によるデモンストレーション(以上学内)、学内実施プログラムの動画視聴(オンライン)を実施。

プロ・アマを問わずゴルファーとしてのマナー及びルール、ゴルフの技術及び理論と実践、広く指導者としての指導法などの習得を目指すものです。



海浜実習

- 対象：体育学部、スポーツ文化学部、スポーツマネジメント学部
- 実施日：7月7日(火)～7月10日(金)
- 場所：横浜・健志台キャンパス
- 主な内容：オンデマンド事前学習(共通)、および「プール実技(泳法訓練、遠泳訓練、救助法訓練など)と課題提出」、または「課題提出」を実施。

これまで千葉県岩井海岸で実施されてきた伝統的な実習。遠泳プログラムの企画・運営、泳法や水辺の事故と救助法などについて学ぶものです。



野外活動実習C(幼児野外活動)

- 対象：児童スポーツ教育学部1年
- 実施日：7月8日(水)～7月10日(金)
- 場所：東京・世田谷キャンパス
- 主な内容：仲間との親睦を深めるための交流活動、レクリエーション等、落ち葉や草花などの自然物を使用した製作・グループごとの発表を実施。

幼児教育に関するさまざまな活動を実践・体験する実習です。さらに、大学での学びに対する意識を高めるとともに仲間との親睦を深めます。



野外活動実習I(海)

- 対象：保健医療学部救急医療学科1年
- 実施日：7月8日(水)～7月11日(土)
- 場所：横浜・健志台キャンパス
- 主な内容：水の事故から身を守るウォーターセーフティーやスノーケリング等、また陸上での事故から身を守る救急法等を学ぶ。

保健医療学部救急医療学科では、「野外活動実習I(海)1年必修」「同II(雪山)2年必修」「同III(河川)3年選択」「同IV(山岳)4年選択」を実施しています。

